

# Tmab+XP

Tmab(トラスツズマブ)+Cape(カペシタビン)+CDDP(シスプラチン)

**【適応】**

HER2 過剰発現が確認された進行・再発胃がん

**【投与スケジュール】**

	Day1		Day14		Day21
Tmab (初回) 8mg/kg (2回目以降) 6mg/kg	↓				
CDDP 80mg/m <sup>2</sup> 2時間かけて	↓				
Cape 2000mg/m <sup>2</sup> ※ 分2	→				

CapeはDay1の夕から服用開始し、14日間服用する(Day15の朝まで)。1週間休薬。

3週を1コースとする。

※重度(Grade3以上)の Infusion reaction が現れた場合、本剤の投与を中止し、以降、本剤を投与しないこと。また Grade2 以下の Infusion reaction が現れた場合は、投与速度を減じて慎重に投与すること。

※Tmab が投与予定日より 8 日以上経過した場合は、初回量(8mg/kg)で開始する。

※Tmab は初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降の投与時間は30分間まで短縮できる。

**※Capeの投与量について(C法)**

体表面積	通常量	1段階減量	2段階減量
1.36 m <sup>2</sup> 未満	1200mg(4錠)/回	900mg(3錠)/回	600mg(2錠)/回
1.36~1.41 m <sup>2</sup> 未満	1500mg(5錠)/回	1200mg(4錠)/回	
1.41~1.51 m <sup>2</sup> 未満			1800mg(6錠)/回
1.51~1.66 m <sup>2</sup> 未満	2100mg(7錠)/回	1500mg(5錠)/回	
1.66~1.81 m <sup>2</sup> 未満			2100mg(7錠)/回
1.81~1.96 m <sup>2</sup> 未満	2100mg(7錠)/回	1500mg(5錠)/回	
1.96~2.11 m <sup>2</sup> 未満			2100mg(7錠)/回
2.11 m <sup>2</sup> 以上	2100mg(7錠)/回	1500mg(5錠)/回	

●カペシタビン投与量について、クレアチニンクリアランス (CLcr) 値により必要に応じて減量してください。

クレアチニンクリアランス推定値 CLcr (Cockcroft-Gault 式)

男性 Ccr 推定値 (mL/min) = 体重 (kg) × (140 - 年齢) ÷ (72 × 血清クレアチニン値 (mg/dL))

女性 Ccr 推定値 (mL/min) = 体重 (kg) × (140 - 年齢) × 0.85 ÷ (72 × 血清クレアチニン値 (mg/dL))

中等度：投与開始前の CLcr が 30~50mL/min の患者 → 75%用量 (減量段階 1) で開始

軽度：投与前の CLcr が 51~80mL/min の患者 → 初回減量は不要

※Cape の休薬、減量、再開について

NCI による毒性の Grade 判定	治療期間中の処置	治療再開時の投与量
Grade1	休薬・減量不要	減量不要
Grade2 初回発現 2 回目発現 3 回目発現 4 回目発現	Grade0~1 に軽快するまで休薬 Grade0~1 に軽快するまで休薬 Grade0~1 に軽快するまで休薬 投与中止・再投与不可	減量不要 1 段階減量 2 段階減量
Grade3 初回発現 2 回目発現 3 回目発現	Grade0~1 に軽快するまで休薬 Grade0~1 に軽快するまで休薬 投与中止・再投与不可	1 段階減量 2 段階減量
Grade4 初回発現	投与中止・再開不可 あるいは治療継続が患者にとって望ましいと判定された場合は、Grade0~1 に軽快するまで投与中断	2 段階減量

※手足症候群の判定基準

Grade	臨床領域	機能領域
1	しびれ、皮膚知覚過敏、ヒリヒリ・チクチク感、無痛性腫脹、無痛性紅斑	日常生活に制限を受けることはない症状
2	腫脹を伴う有痛性皮膚紅斑	日常生活に制限をうける症状
3	湿性落屑、潰瘍、水疱、強い痛み	日常生活を遂行できない症状
該当する症状の Grade が両基準 (臨床領域、機能領域) で一致しない場合は、より適切と判断できる Grade を採用する。		

<GDDP> 腎障害時の減量方法

CCr (mL/min)	61 以上	60-46	45-31	30 以下
	減量なし	75%に減量	50%に減量	禁忌だが、 必要な場合は 50%に減量して投与